

夏合宿 北海道

64期 三嶋 歩夢

今回、私達は北海道の羊蹄山、朝日岳、十勝岳に日帰り登って来ました。遠征で行く登山は初めてであり緊張しましたが今思うと実に充実した経験になりました。また観光も多めにでき北海道を誰よりも最大限に満喫できたと思います。その内容を以下に記述します。

<1, 2日目>

8月31日の夜、私達は部員の暖かい見送りの中金沢駅を出発し、フェリーに乗るために福井県の敦賀港を目指しました。そして到着後、苫小牧行きのフェリーに乗って北海道へ向かいました。私はフェリーに乗ることが初めてで最初船酔いに悩まされましたが徐々に身体が順応し、最終的には楽しむことができました。敦賀を旅立っておよそ20時間後、9月1日の夜には何事もなく北海道に上陸し、その日は苫小牧で泊まりました。

<3, 4日目>

この2日間は羊蹄山へ向け車で移動しながら様々な観光地を巡りました。少し遠回りしましたが例えば、登別の熊牧場、函館の赤レンガ倉庫、室蘭の地球岬など行くことができ記憶に残る経験ができました。そして、その夜羊蹄山の麓へ行きテントを張って、早朝から出発できるよう夕方頃には就寝しました。

<5日目>

この日は北海道へ来て初めての登山であり、私を含め仲間達は高揚していました。午前4時10分起床、4時30分出発というかなり早い時間の日程にも関わらず班の皆は4時20分頃には出発の準備ができており、やる気がとても伝わってきました。予定通り出発後、3時間かけて頂上を目指しましたがこの山は坂が急な場所が多く体力をかなり消耗するため、班の一人がダウンしてしまいました。それでもお互いに励まし合ってなんとか頂上に登ることができました。偶然にも天気にも恵まれ、そこから見る景色は絶景であり、達成感につつまれました。その後、山をくだり小樽のコテージを借りて宿泊しました。

<6日目>

旭岳付近のキャンプ場に移動しつつ、札幌と旭川を観光しました。

<7日目>

午前6時頃に旭岳まで移動し、ロープウェイを経て登り始めました。この山は外国人の方や観光客が多く、また、登山道もそこまで急ではなかったため、比較的楽に登ることができました。登山途中、姿見の池や、本州では3000m級の山にしかないような高山植物を見ることができ、楽しむことができました。2時間30分ほどかけて頂上に着くことができ、そこから見る景色は絶景で、大雪山系の山々を見渡すことができ、とても爽快な気分になりました。下山後、十勝岳付近のキャンプ場に車で移動して、体を休めました。

<8日目>

十勝岳登山はこの北海道合宿で1番体力的にも精神的にも、辛いものとなりました。最初の方は登山道がなだらかになっているにもかかわらず、歩きづらい道が続き、疲れた体にはとてもストレスのたまるものでした。また途中では、腐卵臭のする道があり、喉や鼻を痛めつけられたので、急いで匂いがなくなるまで歩きました。それらのような辛い道が続いたので、班のみんなで励まし合いながら登り続けました。頂上に着いたときは、曇ってしまい景色を見ることはできませんでした。登頂した時の達成感はとても心地よかったです。

<9日目>

この日は鶴川でラフティングを体験しました。とてもいい体験をできました。

次の日にはトムラウシに登る予定でしたが、雨予報になっていたため、中止にすることになりました。悔しかったので、もう一回登りに行きたいと思っています。

<10, 11, 12日目>

トムラウシに登ることができなかったため、10日目の日程を変更し、10, 11日目は観光をしました。その後12日目にフェリーに乗って金沢に帰還しました。

今回の夏合宿の12日間はあっという間でした。3年生が2人と一年生が4人という配分の班でしたが、気を遣い合うことなく、とても楽しむことができました。来年は僕たちも後輩ができるので、先輩として、いい姿を見せることができるように日々精進していきたいと考えています。



旭岳・2019.9.6（7日目）

夏合宿 奥穂高

64期 橋本真樹

私たちのパーティーは、1年生3人、3年生3人の計6人で、日本百名山に指定されており、日本第三位の高さを誇る奥穂高岳に9月3日から6日の4日間で行って来ました。今から移動を含めて、合宿のスケジュールと感想を記します。

☆1日目

移動（金沢～長野）

<上高地—明神分岐—横尾—Sガレ—涸沢>

早朝にやまや前を出発し、高速道路を通りました。移動の時間、先輩の安全運転のもと、車中で皆と楽しい会話したことを覚えています。そして、あっという間に長野県に入り、私は、初めての夏合宿に楽しみな気持ちと、ちょっとした緊張の両方を抱きながら、シャトルバスに乗って、上高地に到着というアプローチをしました。

上高地はとても空気が美味しくて、リフレッシュした状態で登山がスタートしました。横尾までは比較的平坦で道幅が広がったです。みんなで和気あいあいと、鼻歌でイントロクイズをしながら歩きました。そしてなんと、木々にはサルがいました。また、私たちが歩く道の目の前をのんびり歩いていたのです。とても驚きました。

横尾で小休憩をとったあと、しばらく歩くと、ごつごつとした岩の上を歩きました。途中で、雨が降ってきて、きついなと思いながらも、何度か休憩をとって、一定のペースを保って歩きました。しかし、1日目の山場である、Sガレで、私は完全にバテてしまい、ペースが乱れ、弱音をはいてしまいました。そんな時でも先輩は、先頭に立って、「あとちょっとだし頑張ろう」とメンバーに声かけてくれました。そのおかげで、乗り越えることができました。あのときの先輩のたくましい背中には忘れないです。

無事みんな涸沢に着いたときは、また晴れが戻ってきて、テントを張り、夕食を食べようとしたその時、豪雨が襲って来ました。雨だと、移動も大変だし、なにより寒いことがかなり自分にとって辛かったです。

でも、夕食だった、石川名物、とり野菜みそ鍋を皆で囲んで食べて、心も体も温まりました。明日は1日中晴れてほしいと願い、シュラフに入りました。☆2日目 沈殿

朝起きてみると、雨音がテントの中でまだ鳴り響くぐらいに激しく降っていました。朝食を食べた後も雨がやまなかったので、予定していた奥穂高岳を3日目に持ち越すことに決めました。

この日はみんなと涸沢ヒュッテの小屋で、談笑したり、名物のおでんを食したりしました。気温は雨でやはり低かったのも、そんな中のおでんは格別でした。アタックできなかったのは残念でしたが、メンバーとゆったりとした有意義な時間を過ごせたし、こういう日もたまにはあってもいいのかなと私は思いました。

でも、明日こそは、なにがなんでも登りたいという気持ちが強く、でも奥穂高に私は登れるのかという不安を抱えながらも、全力で「登れますように」と祈願して寝ました。

☆3日目

<涸沢ヒュッテ—穂高岳山荘—奥穂高岳>

昨日の祈願が伝わったのか、起きたら、雨音が一切聞こえない。テントから出ると、昨日にはあった濃い霧がなく、さわやかな天気でした。

本来の計画だと、2日目に奥穂高、3日目に北穂高に登る予定でしたが、沈殿があった関係で、メンバーで話し合った結果、奥穂高岳に登ることに決めました。ヘルメットを装着して、いざ出発。

1日目は、今までの山行で1番重い荷物を背負っていて、しんどかったけれど、今回はサブザックでの山行だったので、荷物の負担がなく、いきいきと歩くことができました。

しばらく登ると、ザイテングラードが見えてきました。傾斜が高く、かつ大きい岩が私たちを待ち構えていました。緊張しながら、慎重に登っていました。ザイテングラードの中腹付近で、私の後ろからメンバーの叫び声が聞こえてきました。後ろを振り返ると、無事メンバーはいましたが、話を聞くとところによると、あるメンバーが足を滑らせて滑落しかけたそうです。ザイテングラード。甘くないです。少しの油断も許すことができない。より緊張感をもって進みました。

約2時間で穂高岳山荘に着きました。顔を上にむけると、そこには穂高岳が間近に。着実に近づいていることが嬉しくて、疲れが少しだけ癒やされた気がしました。小休憩をした後、再出発して、山頂に向かいます。山頂までの道は、複雑な足場が多く、崖があるのは当たり前なぐらいで、いくつもの鎖、はしごを経験しました。今から思うと、怖すぎて足がすくんでもおかしくないレベルでした。でも、山頂の直前は、あまり怖さを感じず、むしろ楽しく登っていました。それは、ここに至るまで、危険な箇所を登ってたくさん経験値を得たからだと思います。

登り始めて約3時間、ついに山頂に着きました。青空がひろがり、遠くの山もくっきり見える。まさに絶景でした。自分は今、3190mの山の上に立っているのだと実感したのと同時に、達成感を感じました。写真で見るとは違う、肉眼で見た絶景は、心に今でも残っています。その後、慎重に下り、無事涸沢に着きました。



9月5日 奥穂高山頂にて

<涸沢-S ガレー横尾>

天気の良い状態が続いたため、今のうちに下っておこうということで、横尾まで下ることにしました。そこで、今までは先輩が先頭をつとめていましたが、リーダーになるための練習として、1年生が先頭をつとめようということになり、1年の男子メンバーがすることになりました。不安だと彼は話していましたが、メンバーの体調を気にしながら、適切なペース配分、休憩を取り入れてくれて、彼は、先頭の役目をちゃんとこなしました。そして無事、横尾に到着。

その後に、一緒に登山したメンバーと飲んだ、小屋で買った冷えたジュースは体に染みわたりました。個人的に、早めに夕食を食べた後、テントの中で寝るまで、ゆっくりのんびりメンバーと話せたのが楽しかったです。

☆4日目 <横尾-明神分岐-上高地>

移動(金沢~長野)

爽やかな晴れの中、奥穂高に無事登頂できた3日目も終え、あっという間に最終日。上高地までは平坦な道が続いたので、皆、楽に感じたのか、コースタイムの約2分の1で上高地に着くことができました。天気も快晴で暖かく、上高地のそばを流れる川が光に反射してきらきら輝いていて、大変美しかったです。河童橋をバックに記念撮影。みんな笑顔で良い一枚です。その後、先輩の車で平湯温泉に行きました。3日ぶりのお風呂は最高でした。汚れがすっきりとれて、さっぱりしました。緑豊かな上高地とお別れして、帰りも安全運転で金沢に着いて、4日間の夏合宿を終えました。



9月6日 上高地にて

☆終わりに

夏合宿は、荷物が重くて、登りがとてもきつく感じたし、雨に何度か見舞われて、精神的にまいってしまいました。でも、なんとか耐えることができましたし、メンタルが鍛えられた良い山行でした。また、初めての夏合宿だったので、わからないことなどいくつもありましたが、先輩方が優しく教えて頂いたり、疲れてしんどいときも、励ましたり、荷物を後輩の分まで持ってくれたりなど、さまざまな形で、私たち1年生を引っ張ってくれました。先輩方にはありがたい気持ちでいっぱいです。私も、来年は、自分のことだけではなく、後輩をサポートすることができるように頑張ります。

最後に、奥穂高山頂には体調不良が原因で、全員の登頂にはなりませんでしたが、全員無事、事故やケガもなくお家に帰ることができました。それに感謝だと思いました。この4日間で、メンバーとの親睦を深められたし、かけがえのない充実した夏合宿となりました。メンバーのみんな、本当にありがとう。

夏合宿 槍ヶ岳・蝶ヶ岳

64期 木戸浦 悠斗

9月1日～9月4日にかけて長野県の槍ヶ岳・蝶ヶ岳の山行を4人で行った。当初の予定では、表銀座山行だったが、メンバーの都合と人数の関係から、予定を変更した。

山行日程

9月1日

金沢発

上高地着

12時54分 上高地発

13時40分 明神館着

14時40分 徳沢キャンプ着

15時35分 横尾キャンプ着

9月1日はここで山行終了した。横尾で一泊し、槍ヶ岳の山行に備えた。

9月2日

3時 横尾キャンプ発

4時25分 槍沢キャンプ着

9時 槍ヶ岳山荘着

11時30分 槍ヶ岳山荘から下山開始

14時20分 槍沢キャンプ着

16時10分 横尾キャンプ着

二日目は横尾キャンプ場から槍ヶ岳をピストンした。槍ヶ岳山荘に近づいたあたりから豪雨に見舞われ、山荘でしばらく雨をしのいだ。2時間ほど待機したが雨が収まる気配がないため、下山を決定した。槍沢キャンプから槍ヶ岳山荘までの道のりは、前半は川沿いを歩き、後半は一部危険な岩場を歩いた。全体的にきれいに道が舗装され、特別危険な場所はなく、歩きやすい道りだった。

9月3日

4時 横尾キャンプ発

8時45分 蝶ヶ岳山荘着

10時30分 横尾キャンプ着

11時50分 横尾キャンプ発

13時20分 徳沢キャンプ着

14時30分 明神館着

15時30分 上高地キャンプ場着

三日目は、蝶ヶ岳をピストン山行した。蝶ヶ岳まではジグザグとした道がほぼ山頂まで続いていた。山頂付近は強い風が吹いており、視界が霧でふさがれていた。山頂からの下山時、空が晴れ始め、穂高のきれいな山々が雲間から時々見ることができた。

9月4日

9時 上高地発

13時 富山駅着

解散

夏合宿 槍ヶ岳

64期 加藤 豪琉

僕たち槍ヶ岳パーティーが行った夏合宿は本来折立から入山し黒部五郎岳、双六岳、槍ヶ岳を通り新穂高温泉駅に向かう5泊6日の予定でしたが、天候の悪化などの様々なことがあり中止という形で幕を下ろしました。僕たちがなぜ今回の夏合宿を中止としたかその過程をここに記します。

僕たちは8月21日に団体装備を配り、22日からの登山に向け着々と準備を整えていきました。そんな中、班メンバー全員が気にしていたことは合宿中の天気が悪いということでした。僕たちは奇跡的に合宿中の天気が回復することを祈り合宿当日を迎えました。

合宿当日の22日、残念ながら天気の良いことはなく僕は雨に打たれながら集合場所である金沢駅に向かいました。富山駅に向かう電車の

始発に乗るということもあり、かなり朝早い時間に集合するというのも遅刻する人も出るかと思われましたが無事全員その電車に乗ることができ、富山駅に到着しました。

富山駅から入山場所である折立まではあらかじめ予約しておいた2台のタクシーを使い移動しました。タクシーで移動しているとある場所が通行止めとなっていました。タクシーの運転手が車を降り事情を聴くとその場所からある程度離れた場所で土砂崩れがあり道をふさいでしまっており、さらに不運なことに数日は通れないとのことでした。

折立に行くことができず困っていた僕たちが運転手さんの助言もあり、立山に行くこととしました。急遽立山に行くこととなった僕たちは立山駅で室堂までの切符を買い、室堂から雷鳥沢キャンプ場に行きました。

キャンプ場に行く道中天候は悪く火山ガスが発生しているところを通ったので気分が悪くなる人もいました。

天候はさらに悪化し雷鳥沢キャンプ場近くの避難小屋みたいなところで休憩をしていました。休憩中、班メンバーでこれからの予定について話しました。天候が悪くなる一方であり、回復する見込みもなく明日明後日と停滞する可能性を考慮した僕たちは今回の夏山合宿を中止にする決断をしました。

そして立山を下山し、その日のうちに富山駅までいき五泊分の食料を班メンバーで分配し自分たちの合宿終わりました。

後日地元に戻った僕は、高校の友達で大学の登山部に入っている人と話す機会がありました。その人も僕たちと同時期に槍ヶ岳に行っており、一日停滞して次の日死ぬ気で下山したそうです。

この話を聞き僕はあの決断が間違っていなかったと思いました。次は快晴の時夏合宿がしたいと思いました。

以上で僕たち槍ヶ岳パーティーの夏合宿の記録を終わります。



夏合宿 南アルプス

64期吉岡 彩乃

私たちのパーティーは北岳を中心に5日間をかけていくつかの南アルプスの山々を縦走しました。また、縦走だけでなく、山梨観光や富士急ハイランドに行ったりと、南アルプスPのみんなでもとても楽しく、濃い時間を過ごすことができました。

<1日目>

金沢駅を出発し、お昼ごろに甲府駅に到着。そのまま、徒歩で近くの山梨名物ほうとうを食べる。その後、バスにて広河原に行き、テント泊。

<2日目>

当初の予定では、広河原を出発後、北岳肩の小屋をゴールとし、3日目に北岳に登頂する予定だったが、そのまま北岳を目指せそうだったので、予定を変更し、北岳に登頂することにした。

途中、暑さと高山病で何名か体調不良を訴えたが、何とか全員で登頂することができた。日本で二番目に高い山から見る景色は絶景だった。その後、北岳山荘にてテント泊。

<3日目>

3日目も少し予定を変更した。北岳山荘を出発後、間の岳に登頂。その後両俣小屋を目指した。途中、崖など危険な場所もあり、とても疲れたが、両俣小屋に着くと隣に川が流れており、みんなで川遊びをしたら、一気に疲れが飛んだ。

<4日目>

朝早くに起床し、両俣小屋から約10キロの道のりをひたすら歩き、長衛小屋に到着。長衛小屋には、南アルプスの天然水で有名な川があり、み

んなで水遊びをした。川があるだけでこんなに楽しいのかと思うくらい、みんなではしゃぎ、とても楽しかった。

<5日目>

5日目は、南アルプスを象徴する甲斐駒ヶ岳に登頂した。途中、きつい傾斜があったり、怖すぎる崖があり、とてもつらかったが、甲斐駒ヶ岳の白い岩や、絶景を見たら一気に疲れが飛んだ。

<6日目>

長衛小屋を出発し、バスにて温泉に到着。みんなで疲れをいやした。その後、甲府駅に戻り、カレーと焼き肉を食べた。本当に美味しかった。夜は、ゲストハウスに宿泊した。

<7日目>

ゲストハウスを出発し、富士急ハイランドに行った。たくさんの乗り物に乗ったり、お化け屋敷に行ったりと、とても楽しかった。

私たちのパーティーはみんな仲良くずっと笑顔が絶えず、本当にこのパーティーでよかったと思った。途中つらい場面もあったが、このメンバーだったからこそ乗り越えることができたと思う。メンバーには本当に感謝しています。



甲斐駒ヶ岳山頂

夏合宿 八ヶ岳

63期中山 晋志

8月10日出発の朝、早朝にも関わらず金沢駅に差し入れを渡しに来てくれたOBの方々を見て、伝統のある部活に自分は入ることができたのだと実感した。僕は、大学に入るまでに山に登った記憶がほとんどない。登ったことがあるのはせいぜい地元の筑波山ぐらいであった。僕は、高所恐怖症である。特に、山が好きなのでもない。そ

れにもかかわらず、僕がワンダーフォーゲル部に入った事にはきちんと理由がある。それは新しいことに挑戦したいという「欲」である。

大学進学とともに一人暮らしをはじめ、知り合いのいない世界に入ったせいでそんな欲が生まれたのだと思う。でもそれでもなぜ「山」を新しい挑戦したいことにしたかは分からない。結果として今、僕は山という新しいことに挑戦することを選んで良かったと思えているので奇跡が起きたといえる。

夏合宿の山に八ヶ岳を選んだ。なぜなら、この八ヶ岳パーティーはそこまで過酷な山登りでないと聞いていたからだ。高所恐怖症の僕にとってはその言葉が一番魅力的であった。しかしこの言葉に騙されることになった。過酷でないと聞いていたのに自分にとってはとてもタフな山登りになったのだ。これはそういった先輩に悪気があったわけではない。僕が本当に高いところが苦手だったためである。3日目に登った横岳で震えていた足の間を今でも覚えている。たくさんの山に登ってきた先輩方が普通に進む道も自分にとってはとても険しい道であった。しかし、今の自分にとってあの言葉に騙されたことは、悪い記憶として記憶されていない。なぜなら怖い思い以上に自分にとって得られたと思うことやものがあまりに大きかったからだ。

まず、景色が忘れられない。この合宿を通して見たすべてのものは美しいものだらけであった。天気が良かったからということも影響しているかもしれないがとてもきれいであった。例えば茅野駅に向かう電車が姨捨駅に泊まった時、車窓から見た長野の街の景色はとても僕の乏しい語彙力では表せないほどきれいであった。あえて、形容するならば「となりのトトロ」の世界のような美しさであった。



姨捨駅・8月10日

硫黄岳の頂上から見た景色も印象的だった。すべてのスケールが大きく、自然の壮大さを感じることでできる景色であった。自分の足で雲の上に来たのだと実感できた。また、3日目の夜に見たたくさんの流れ星の光は記憶にずっと残るだろう。

次に、自分の成長を感じることができたということだ。高いところが苦手な僕にとっては、山登りは登れば登るほど怖い。途中で本当に自分はなんて馬鹿なことをしているのだという考えが浮かんでしまう。それでもあきらめずに登ってやろうという強い精神力が身についた。山を登頂していくごとに次の山も登ってやろうという向上心も芽生えた。この合宿を通して、自分の苦手なことに挑戦することは自分が成長するチャンスであるということを知ることができた。また、つらいことを耐え終わった後の達成感はとても大きいことが分かった。

最後にたくさんの出会いがあったということだ。初日に茅野駅で見知らぬ子どもとしゃべる先輩の姿を見て、これからたくさんの出会いがきっとあると思った。実際、山登りの途中でたくさんの人々と出会った。見知らぬ人々同士でも助け合っていたり、仲良さそうに談笑したりしている姿をたくさん見た。山には、人をやさしくする力があるのだと思った。そして忘れていけないのは、一緒に登った仲間たちだ。山を登るうえでとても大切な要素であると思った。仲間の励ましや、ご飯を食べるときの楽しい雰囲気があれば、僕ほどの山にも登れなかっただろうし、成長もできなかっただろう。

特に大切さを思い知ったのは、最終日の最後の山であった阿弥陀岳の前である。その時、僕は3日間山に登って疲れていたこともあって、恐怖心がピークを迎えていた。さらに目の前には険しそうな阿弥陀岳と登ることをあきらめる人がいて、僕は今にもあきらめそうな状況であった。

でも、ここまで一緒に登ってきたみんなと最後まで同じように登りたいという気持ちが恐怖心を打ち消してくれた。登り切った後の気分は最高だった。



8月10日・阿弥陀岳山頂

今まで述べてきたことからわかるように、今回の合宿は山のことを全然知らなかった僕に、山に対して強い印象を与えた。怖かったけれど、その分達成感もあったし、自然の壮大さと美しさ、仲間の大切さ等を知ることができた。この感覚が僕にまた山に登らせるのだと思った。人生1発目の本格的な山登り合宿が八ヶ岳でよかった。一緒に登る仲間恵まれてよかった。心の底からそう思う夏合宿であった。



8月12日・行者小屋

